HKテレビ・シナリオ

つかこうへい

つかこうへい

昭和二三年四月福岡県に生れる
慶応義塾大学文学部フランス哲学科中退
著書　『あえてブス殺しの汚名をきて』
『初級革命講座飛龍伝』
『傷つくことだけ上手になって』
『蒲田行進曲』
『寝盗られ宗介』
『つか版忠臣蔵』他
昭和四九年「熱海殺人事件」で第十八回岸田戯曲賞受賞
昭和五七年「蒲田行進曲」で第八十六回直木賞受賞
昭和五八年「蒲田行進曲」で日本アカデミー最優秀脚本賞受賞

嫁ぐ日 '84

昭和五九年八月二五日　第一刷発行
著者　つかこうへい

© 1984 Kohei Tsuka

Printed in Japan
発行者　藤根井 和夫
定価　一〇〇〇円
印刷　㈱光邦
製本　㈱石津製本
発行所　日本放送出版協会
東京都渋谷区宇田川町四一一一
郵便番号一五〇
振替　東京一一四九七〇一
ISBN4-14-005116-7　C0093　¥1000E
検印廃止　落丁本・乱丁本はお取替え致します

嫁ぐ日'84 ―― 3
かけおち'83 ―― 165

装幀　石井　強司
写真　斉藤　一男
　　飯田　隆夫

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.

嫁ぐ日
’84

（この作品はドラマ・スペシャル九十分用として書かれたものです。
なお放送台本と一部変更があります。）

①

②

③

⑦

⑧

⑨

北村宗介（三十一歳）を座長とするこの一座は裏方さんをあわせて二十人足らずの旅回りの劇団である。

宗介にはまだ籍が入っておらず、式もあげていないが、レイ子（二十九歳）という女房がいる。一座の人間もみなレイ子のことを奥さんと呼んでいる。

（このレイ子役を大竹しのぶが演ずる。写真1～11までを見ていただきたい。稽古場でのわずか五分ばかりのうちに撮った写真である。どれをとっても同じ表情はない。そして、写真12を見て、いまさらながら大竹しのぶの力量を思い知らされた。一体これは何を表現しようとしたものであろうか。わからないからおもしろい女優さんなのである。）

レイ子はこの劇団の十八番の演目「美空ひばりよ、私が娘だ」の主役でもあるし、ほとんどの出しものの主役でもある。二人はかつて学生の頃、立教大学の演劇部で知り合った。いや、六本木のジャズ喫茶でレイ子をみそめた座長が強引に劇団にひきずりこんだのだ。

（写真13はその頃歌っていた姿である）

レイ子は一つの興行が終り、次の興行地にうつる間、なぜか座員の男と逃げる。

が、初日には必ず帰ってくる。

日頃座長の言っている「舞台人は男と逃げたっていい、親を殺したっていいが、舞台に穴をあけることだけはしてはいけない」とのいいつけを守っているわけではあるまいが。

今回レイ子が連れて逃げたのは、座長の片腕ともいえる副座長の謙二郎（三十三歳）であった。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.

謙二郎はのみの心臓しかないほど気が弱いところから、あだなを「のみケン」と呼ばれるほどであったし、東京に病気の奥さんがおり、座長から特別ボーナスというかたちで他の座員よりも恩があるはずなのになぜこんな不始末をやらかしたのかわけがわからない。実際当の謙二郎自身もわからないのだ。

考えてみると、どうも座長にそそのかされた気がする。

例えば、舞台袖で緊張して出を待っていると背後から座長が「レイ子がおまえに気があるらしい」とか、舞台の最中、立ちまわりのつばぜりあいの時、「レイ子が神社の前で待ってる」とか耳打ちするのだ。

はっきり言って、二人分の最終の汽車の切符が机の上においてあったのだ。

そしてことあるたび「女の一人たらしこめないで、河原乞食がつとまるか」と言われていた。しかし、自分の女房を他の男とかけおちさせるようにしむける人間がいるだろうか。が、あの座長のことだとやりかねない……。

謙二郎自身だって、八王子の市役所に真面目に勤めているところを、勝手に辞表を出され、一座にひきずりこまれたのだ。

なにをやるかわからない人であることはたしかだ。

ともあれ、十月五日、一座の公演地は今日から山形県の金砂郷町にうつった。

レイ子と謙二郎は金砂郷駅に着いた。(写真14)

4

15
17
16

一方、劇場の金砂郷町公民館では万が一、レイ子が間に合わなかったことを想定してリハーサルに余念がない。フィナーレレビューショウでのレイ子の代役はミユキがつとめている。若々しい肢体、腰のくびれ、すらりとのびた脚がまぶしくさえある。

（写真15・16・17を見ていただきたい。この「嫁ぐ日'84」のオーディションの時とった新人の女優さんである。名前を高師みゆきという。普段はおとなしくめだたない娘さんである。いい役者さんは日常と演じるときの幅が広いほどいい。

踊りながら、ふと座長はレイ子が遅れることを願っていることに気がついた。（写真18）

レイ子はもう盛りをすぎた女なのかもしれない。そして、そうしたのは自分だ。そろそろ籍も入れ式もあげて落ちついた生活をさせてやるべきなのかもしれない。

その時、レイ子たちが駅に着いたとの電話をうけた演出助手の高野嗣郎（二十八歳）が入ってきた。時計を見ると、五時五十分、本番まで五十分ほどしかない。（写真19　北村宗介を演じるのは萩原流行である）

高野　座長、奥さんが駅に着いたそうです。

宗介　よし。予定通り客入れの準備をしろ。役者はメークにかかれ。

見物していた座員たちは、「ミユキちゃんいいね」「奥さんよりもいいよ」「なんせ若いからな」とボソボソ言いながら散っていった。ミツ子の「ミユキちゃんが踊った方がお客さんが喜ぶと思うんだけどな」の声が宗介の背中につきささる。

ミユキ　よかったですね、奥さん帰って来て。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.